

七ヶ宿ダム20年 水守の郷交流会を開催

七ヶ宿の わが古里は 沈むとも
 學民を潤す 水みなぎらん
 (ふるさとの碑から)

11月21日に、七ヶ宿町
 活性化センターにおいて
 「水守の郷交流会」が開
 催されました。

この交流会は、試験湛
 水開始から20年という
 区切りを迎え、ダム建設
 のため故郷を離れなけれ
 ばならなかったという
 往時を偲び、宮城県民
 183万人の水がめとし
 て水道水を供給している
 ということに感謝し、永
 久に水守の郷として、水
 源地の環境を守り続けて
 いくという思いを込めて
 開催されました。



① 「町は今環境王国の認定を
 受けまちづくりを行っている
 これからも七ヶ宿町の応援団
 として見守ってほしい」とあ
 いさつをする梅津町長

② 七ヶ宿観光ガイドのゆり太
 郎が町の特産品と観光地の紹
 介を行いました

③ 瀬見原慕情を歌う参加者の
 みなさん

④ 若木一郎さん

「ふるさとを忘れる事はな
 かった、環境王国などの取り
 組みで七ヶ宿が頑張ってい
 るニュース
 を見るとう
 れしい」と
 参加者を代
 表してあい
 さつを述べ
 ました。



瀬見原慕情

作詞 伊藤 東
 作曲 齋藤 覚

昔を偲ぶ 宿場路の
 屋並なつかし 渡瀬は
 湖底に眠る 思い出と
 今別れゆく 切り通し
 あゝ 故郷は 沈みゆく
 有谷の館に つわものは
 夢はぐくみし 原宿の
 名残りはつきぬ 大梁川
 君と歩いた せせらぎも
 あゝ 故郷は 沈みゆく
 別れはつらし 旅人が
 その名を残す 追見の
 またの会う日を誓い合う
 若木森も 今はなく
 あゝ 故郷は 沈みゆく

参加者からの声

- 当時は引越しが忙しくいろいろ考える時間がなかった。今思うと、ふるさがなくなったような気がして寂しい気持ちになる。移転したあの頃よりも年をとった今の方がなおさら思いが強くなっている。
- 白石市に移転した。近所に8名七ヶ宿出身者がおりお茶を飲んだり、一緒に旅行に行っつきあいがある。
- (閉会后に)とても良かった。毎年してほしいぐらいだ。みんなにあえて、いろいろ思い出した。
- 移転して約30年になる。七ヶ宿のことを忘れたことはない。
- 移転した方々も代替わりしてきている。今日来た人達は当時、お世話役をして苦労した人達ではないが、町内に移転してから普段はあまり感じないが、瀬見原慕情を聴いたら、グッとくるものがあった。昭和46年にダム建設の話が出て57年に妥結、もしかしたら七ヶ宿を離れてからの生活の方が長い人もいないかもしれない。今回の交流会を開催してもらってありがたい。



⑤ 文化協会の小野数衛会長がアトラク
 ションの司会進行
 ⑥ 民謡民舞保存会のみなさんは踊りを披
 露してくれました。

⑦ 大正琴愛好会のみなさは瀬見原慕情などの曲
 を演奏してくれました。

⑧ 昼食会では、やまのし
 ずくのおにぎりを食べ、
 芋煮を堪能、久々の再開
 で話が弾みました。



第3回みちのくダム湖サミット

交流会に先立ち11月11
 日に「第3回みちのくダ
 ム湖サミット」が七ヶ宿
 町活性化センターを会場
 に開催されました。



ラーとなりました。活動
 発表として水を中心とし
 た広範囲での環境活動、
 炭を生かした活動、環境
 を生かした米作り、ダム
 を元にした連携、地域を
 つなぐ観光について発表
 されました。



第1部では「水守の郷
 七ヶ宿」からの情報発
 信として水守の郷づくり
 のリーダーによる活動
 発表が行われ、NPO法
 人水守の郷七ヶ宿海藤節
 生理理事長をコーディネー
 ターに水守人の会佐藤光
 夫代表、源流米ネット
 ワーク梅津賢一代表、小
 原温泉四釜健彦組合長
 七ヶ宿町観光ガイドゆり
 太郎役渡部光昭氏がパネ

第2部では、「水源地
 の明るい未来」について
 パネルディスカッション
 が行われ、梅津町長がダ
 ムを持つ本町の役割等を
 話しました。